



中部大学春日丘高校 2年SGH課題研究

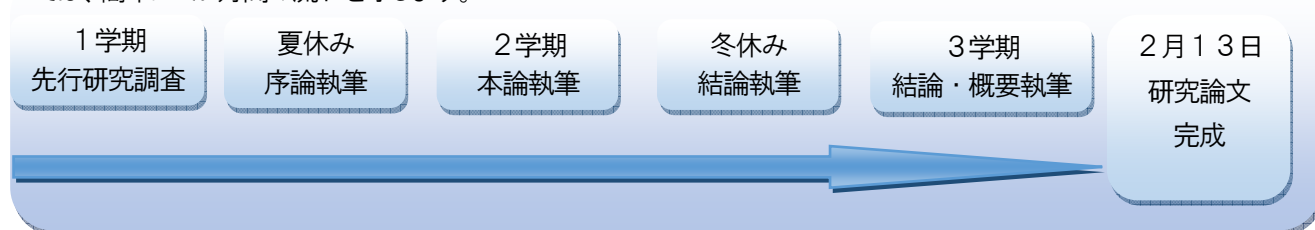
研究論文執筆及びゼミ活動の計画

ゼミ活動における研究論文執筆について

SGH課題研究の学習も2年目を迎え、1年生で学んだことをもとに、前回(5月7日)の授業で、大まかなながらも研究テーマが決定しました。研究は成果を求められ、その成果の発表に論文執筆は欠かせません。

2月の研究論文完成に向けて、今日からの約9か月間、土曜日1~2限(および適宜臨時で開かれます)はゼミ活動(全15回)の形態を取りながら、学習活動を進めていくことになります。なお、15回のうち4回は大学院生を招いて、研究についての指導をいただきます。

では、簡単に9か月間の流れを示します。



さあ、1学期は先行研究の調査に全力を尽くしましょう。調査方法は論文検索サイトや基礎資料の参考文献を使うなどの方法があることはすでに学習した通りです。今回の学習における基礎資料は次の2冊です。

今井昭夫・岩井美佐紀編著(2012)『現代ベトナムを知るための60章【第2版】』明石書店
 村井吉敬・佐伯奈津子・間瀬朋子編著(2013)『現代インドネシアを知るための60章』明石書店

調査が落ち着く頃には夏休みになっています。休み中に序論の執筆をしましょう。他の学習活動との両立を図るべく、計画的に研究を進めてください。

研究論文構成概略

- ◆ タイトル
- ◆ 概要 論文全体の要旨を500字程度でまとめる。
- ◆ 目次 全体の章立てが解るように目次を作成する。
- ◆ 序論 論文全体の問いかけ。研究の目的、先行研究との関連における研究の意義を述べる。
- ◆ 本論 以下のように3章立てとする。
 - 第1章 課題の原因、歴史的背景
 - 第2章 問いに対する仮説と課題を解決する手法
 - 第3章 結果を客観的、論理的に記述
- ◆ 結論と展望 序文での問いかけに対応する形で結論を述べ、未解決の問題・今後の展望について記述する。
- ◆ 参考文献

ゼミ活動の概略

ゼミ活動の目的は、研究成果とそれに関する調査の内容をわかりやすくメンバーに報告することで発表能力を向上させること、その発表を受けて良い点、改善点を見つけるという批評能力を養うこと、そして、以上の協働学習を通じて、研究内容をより高度なものにしていくことです。そのために生徒の皆さんは、執筆した文書(A4版1枚)を2日前までに担当教員に提出してください。当日はそれをもとに学習を進めていくことになります。

では、簡単に毎回の学習の「型」を示します。

- ① 発表順を決めます。
- ② 良い点を見つける役と改善点を見つける役をクジにより決めます。
- ③ 報告者は文書のコピーを全員に配付します。
- ④ 発表生徒の文書を読み、そこにそれぞれの役に応じた内容と質問をメモします。
- ⑤ 発表者が自分の概要を報告し、他の生徒が質問および批評を行います。

以上を人数分繰り返していくことになります。

全員の発表・質疑が終わったところで、メモ(良い点・改善点)を書き込んだ文書を、執筆者に返却してください。返却された文書は自分の研究に活かしてください。

研究論文作成計画

1学期

- 5月21日(土) ゼミ① 先行研究調査の共有1回目。
- 6月4日(土) ゼミ② 先行研究調査の共有2回目。
- 6月18日(土) ゼミ③ 先行研究調査の共有3回目。
- 7月2日(土) ゼミ④ 先行研究調査の共有4回目。

夏休み

「序論」を執筆し、8月20日(土)に担当教員にデータ・紙の両方で提出。

2学期

- 9月3日(土) ゼミ⑤(大学院生による指導)「序論」完了。
- 9月24日(土) ゼミ⑥「本論」(第1章)の点検。
- 10月1日(土) ゼミ⑦(大学院生による指導)「本論」(第1章)完了。
- 10月15日(土) ゼミ⑧「本論」(第2章)の点検1回目。
- 11月7日(月) ゼミ⑨「本論」(第2章)の点検2回目。
- 11月19日(土) ゼミ⑩(大学院生による指導)「本論」(第2章)完了。
- 12月3日(土) ゼミ⑪(大学院生による指導)「本論」(第3章)の点検。
- 12月12日(月) ゼミ⑫「本論」(第3章)完了。

冬休み

「結論」の執筆を開始し、論文としての体裁を整え始める。

3学期

- 1月16日(月) ゼミ⑬「結論」の点検。
- 1月21日(土) ゼミ⑭「結論」完了。
- 2月6日(月) ゼミ⑮「概要」の点検。
- 2月13日(月) データ・紙の両方で担当教員に研究論文提出完了

